

概要

- 障害者の施設利用に際し、施設管理者等が配慮すべき点をまとめたマニュアルを作成し、区市町村等に普及
- 本マニュアルは、工事を伴うようなハード改修ではなく、簡易な備品購入やソフト対応などの好事例等を紹介
- 今年度、東京2020大会等を契機に進められた新たな事例を収集し改訂



全体構成

- 第1章 東京2020大会のレガシー
- 第2章 障害の理解とコミュニケーション
- 第3章 施設利用の前に
 - 初回利用・問合せ時の確認ポイント
 - 駐車場
 - 身体障害者補助犬
 - ホームページ
- 第4章 共用施設の利用
 - 受付
 - ロビー・廊下・共用スペース
 - 更衣室
 - トイレ
 - シャワー
 - 緊急時の対応
- 第5章 スポーツ施設の利用
 - 体育館
 - トレーニング室・ジム
 - プール
 - その他屋外施設
- 第6章 誰でも一緒に楽しめるスポーツ ～パラスポーツの魅力～
- 第7章 障害者差別解消法
- 第8章 地域における取組事例
- ICTの活用、Q&A、問合せ先 等

主な改訂内容

東京2020大会のレガシー

誰もが使いやすい施設を整備するために、利用者目線に立ち、当事者意見を聞くことの重要性を紹介(P4)

● 施設整備では障害のある人等の意見を反映

誰もが使いやすい施設を整備するためには、利用者目線に立ち、障害のある人の意見を聞くなどコミュニケーションをとりながら進めることが重要です。

都が整備する大会競技会場については、競技会場等に適用されるバリアフリー基準となる「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえるとともに、障害者団体や学識経験者などから成る「アクセシビリティ・ワークショップ」を設置し、設計段階において車いす使用者席やトイレなど様々な項目について意見をいただきながら整備を進めました。



東京2020大会をきっかけに始めた施設でのパラスポーツの普及の取組を紹介(P7)

● パラスポーツの普及啓発



(亀戸スポーツセンター (荒川区))

東京2020大会で様々なパラスポーツが注目され、各スポーツ施設では普及啓発に関する取組が進んでいます。

亀戸スポーツセンター(江東区)では、「東京2020大会継承事業」としてポッチャを誰でも気軽に体験できるよう、受付横のロビーに「ミニポッチャ体験スペース」を設けています。

床を傷つけない工夫

スポーツ用車いすの正しい理解と認識を深めるとともに、床の適切な維持管理方法を紹介(P41)

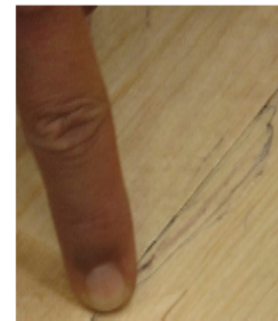
● スポーツ施設管理者向けトラブルシューティング

① プレーキ痕

専用のラパークリーナー(溶剤タイプのクリーナー)による清掃を行います。

② 凹み痕

補修方法はパレーポールやバドミントンコートの支柱を立てる金具の周囲の凹み痕と同様で、損傷度に応じた対応になり、パテによる補修を行います。補修できない場合は、ライン消し用テープによる表面を覆い、損傷が広がらないように注意します。ただし損傷の程度によっては、業者と相談し改修してください。



床の損傷を補修した様子

障害者差別解消法

対話の重要性や環境整備の事例を紹介(P54)

■ 対話の重要性

合理的配慮の提供においては、双方が建設的に対話し、合意できる方法を模索することが重要です。利用者はどのような配慮を必要としており、施設はそれにどう対応できるのかなど対話することが双方の理解につながります。



① 本マニュアルをスポーツ施設に対して広く普及

【区市町村】

- ・パラスポーツの専門知識を有するアドバイザーが助言等を実施

【区市町村・民間】

- ・障害の理解や配慮のポイント等に関する研修を実施
- ・スポーツ施設にマニュアルを配布（約2,000件）

② 各障害種別の配慮ポイントをまとめた動画を紹介



利用者本人の意思を確認して、必要であれば誘導しましょう

視覚障害者を誘導する際のポイントを動画で紹介



車いす使用者は、階段や段差があると自力では移動が困難です

段差を越える際のポイントを動画で紹介

障害のある方の身近な地域のスポーツ施設の利用を促進